

F-35 家庭管理能力と学歴の関係

和洋女大文家政 酒井ノブ子

目的 家庭管理能力は学歴によって優劣の差があるものか、差があるとしたら、どんなところに、それが表われているか、など、その実態を検討して、今後の家庭管理の研究と教育の一助にしたいと考えた。

方法 昭和42年8月から、44年9月までに、長崎市およびその近郊を中心に行なった家庭管理能力調査の資料の中から、農家、商家、給与生活者家庭、共働り家庭、有職未亡人家庭など、できるだけ環境状況を異にするものを含めるように配慮し、旧制小学校と新制中学校卒業の主婦165名、旧制女学校程度と新制高等学校卒業の主婦165名、旧制専門学校程度と大学卒業の主婦55名を抽出し、家庭管理能力と学歴の関係をみることにした。

結果 I, 総体的に学歴のある方が家庭管理能力は優れている。これを職業別にみると、給与生活者家庭と有職未亡人家庭では学歴による有意差が認められたが、その他では認められなかった。II, 家庭管理活動としては、制御を除いた計画、調整、教示、指導、評価などの能力は学歴のある方が有意差をもって優れていた。中でも、計画能力については、その差が顕著に表われていた。III, 家庭管理の対象としての資源の面では、知識・技能を除いた愛情、気質、体力、時間、金銭、衣服、食物、住居、家庭設備と公共施設の管理においては、学歴のある方が有意差をもって優れていた。中でも、家庭設備と公共施設の管理については、その差が顕著に表われていた。